

血漿分画製剤の需給見通し

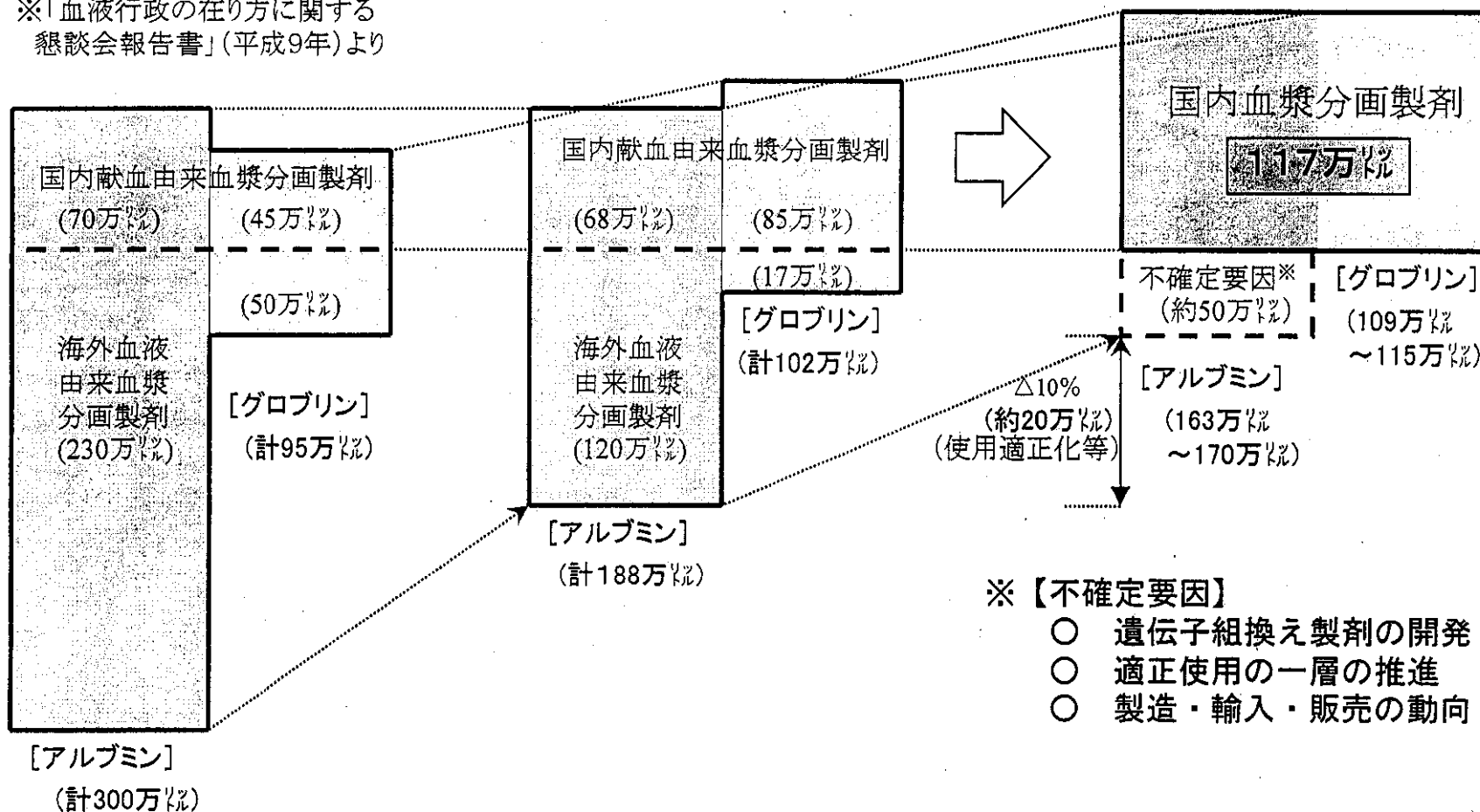
(「血液製剤の安全性及び安定供給の確保に関する基本方針」(平成15年)における推計)

【平成8年:使用量】

【平成14年:使用量】

【平成20年:使用量】

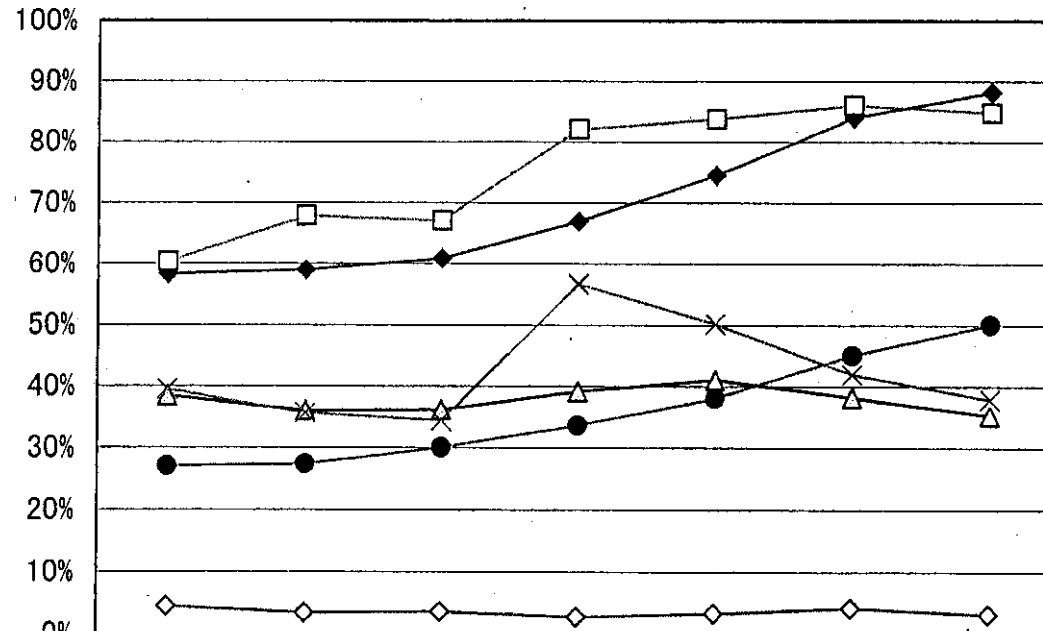
※「血液行政の在り方に関する
懇談会報告書」(平成9年)より



※【不確定要因】

- 遺伝子組換え製剤の開発
- 適正使用の一層の推進
- 製造・輸入・販売の動向

主な血漿分画製剤の自給率の推移 (供給量ベース)



H10年度 H11年度 H12年度 H13年度 H14年度 H15年度 (見込) H16年度 (見込)

◆ 乾燥濃縮人アンチトロンビンIII	58.28%	58.97%	60.86%	67.02%	74.48%	84.01%	88.23%
□ 人免疫グロブリン	60.37%	67.89%	67.14%	82.13%	83.76%	86.07%	84.83%
△ 組織接着剤	38.47%	36.06%	36.18%	39.16%	41.05%	38.25%	35.25%
× 血液凝固第VIII因子 (遺伝子組換え型含む)	39.52%	35.67%	34.41%	56.67%	50.18%	41.99%	37.88%
● アルブミン	27.07%	27.43%	30.09%	33.63%	38.06%	45.12%	50.11%
◇ 抗HBs人免疫グロブリン	4.57%	3.46%	3.59%	2.76%	3.35%	4.23%	3.18%

自給率100%のもの

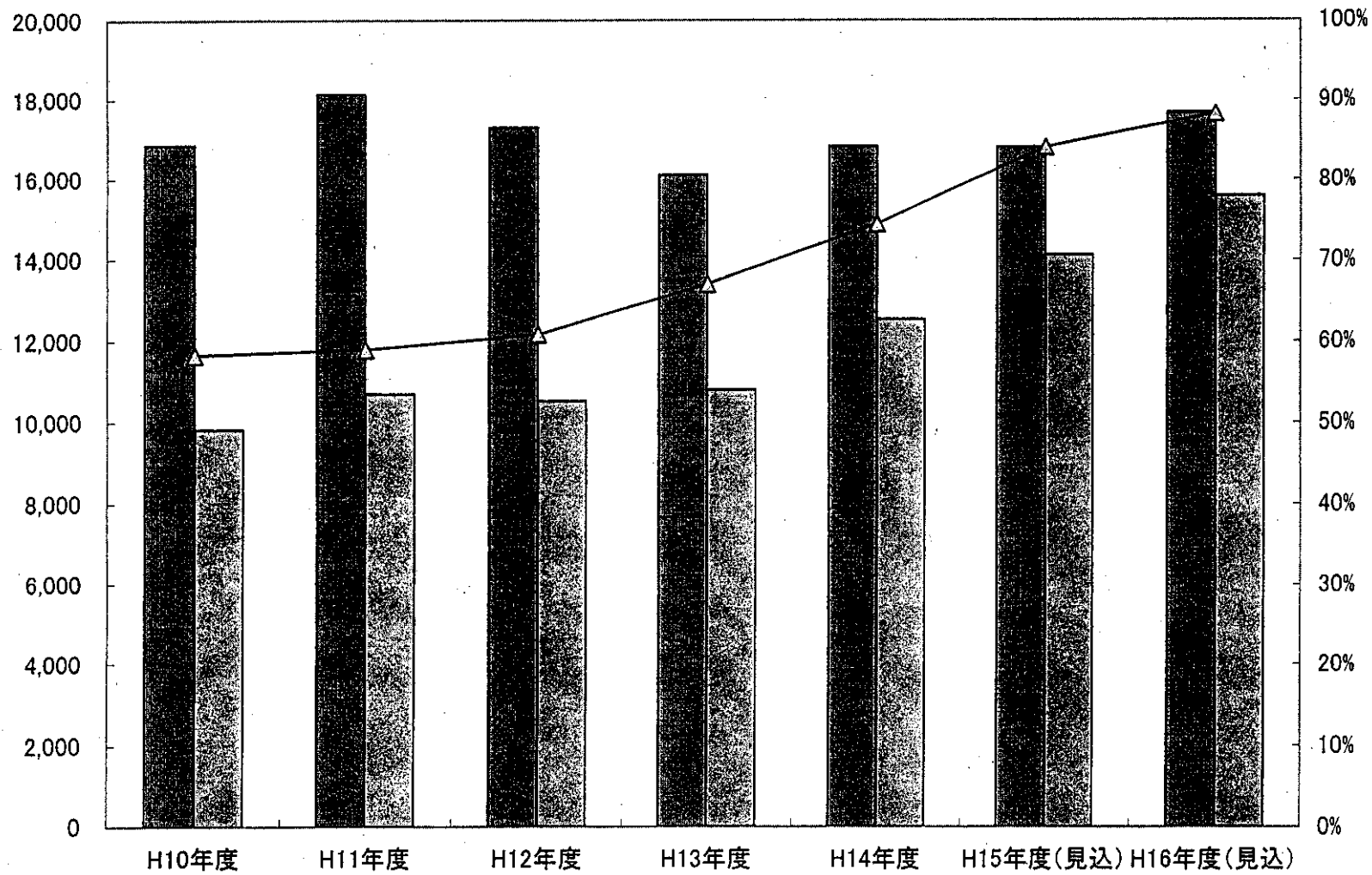
乾燥人フィブリゲン、血液凝固第VIII因子(血液由来に限る)、乾燥濃縮人血液凝固第IX因子(複合体含む)、トロンピン、乾燥濃縮人活性化プロテインC

自給率0%のもの

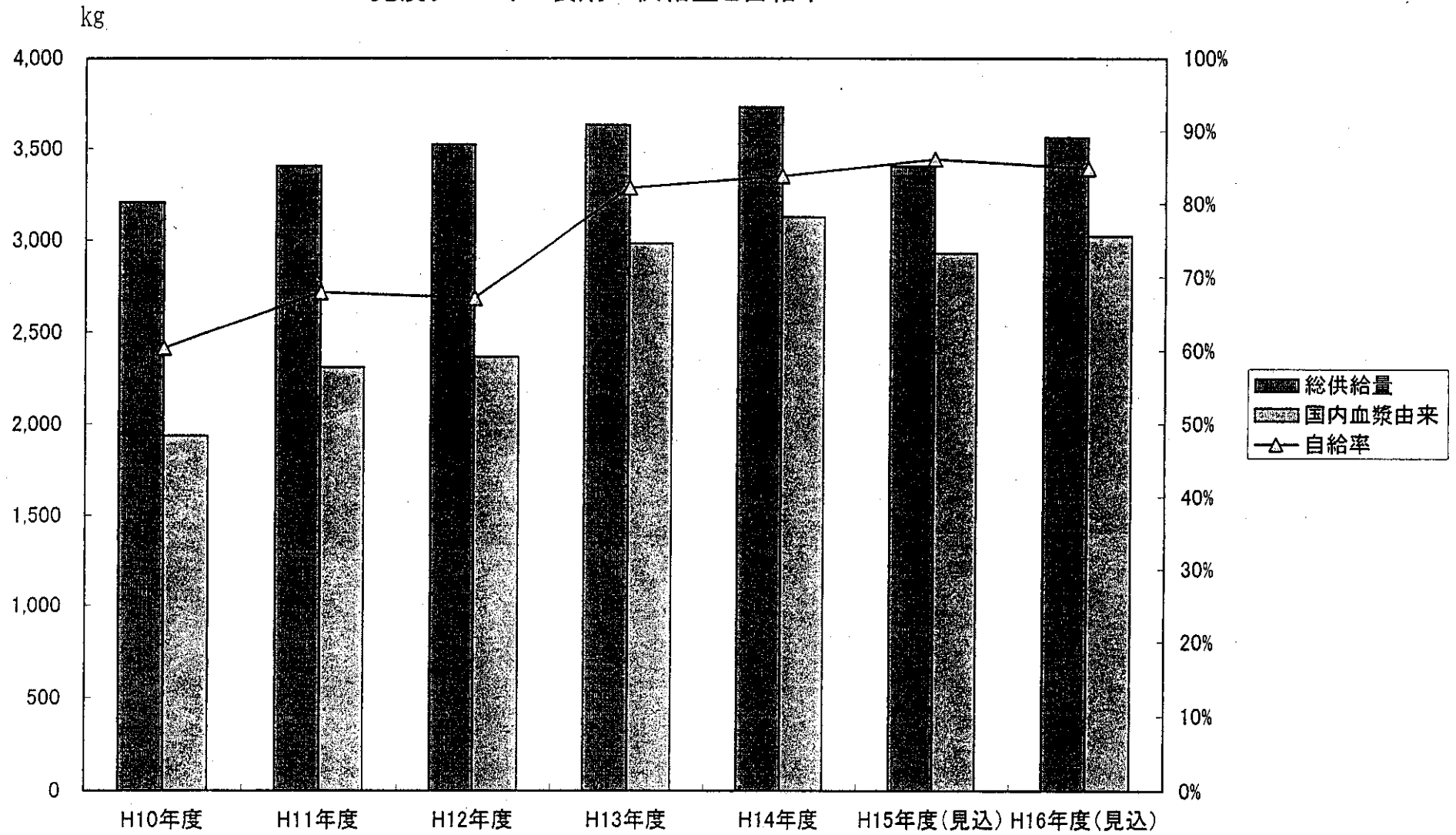
インヒビター製剤、乾燥濃縮血液凝固第XIII因子、乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン、抗破傷風人免疫グロブリン、人ハプトグロビン、乾燥濃縮人CI-インアクチベーター

乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ製剤の供給量と自給率

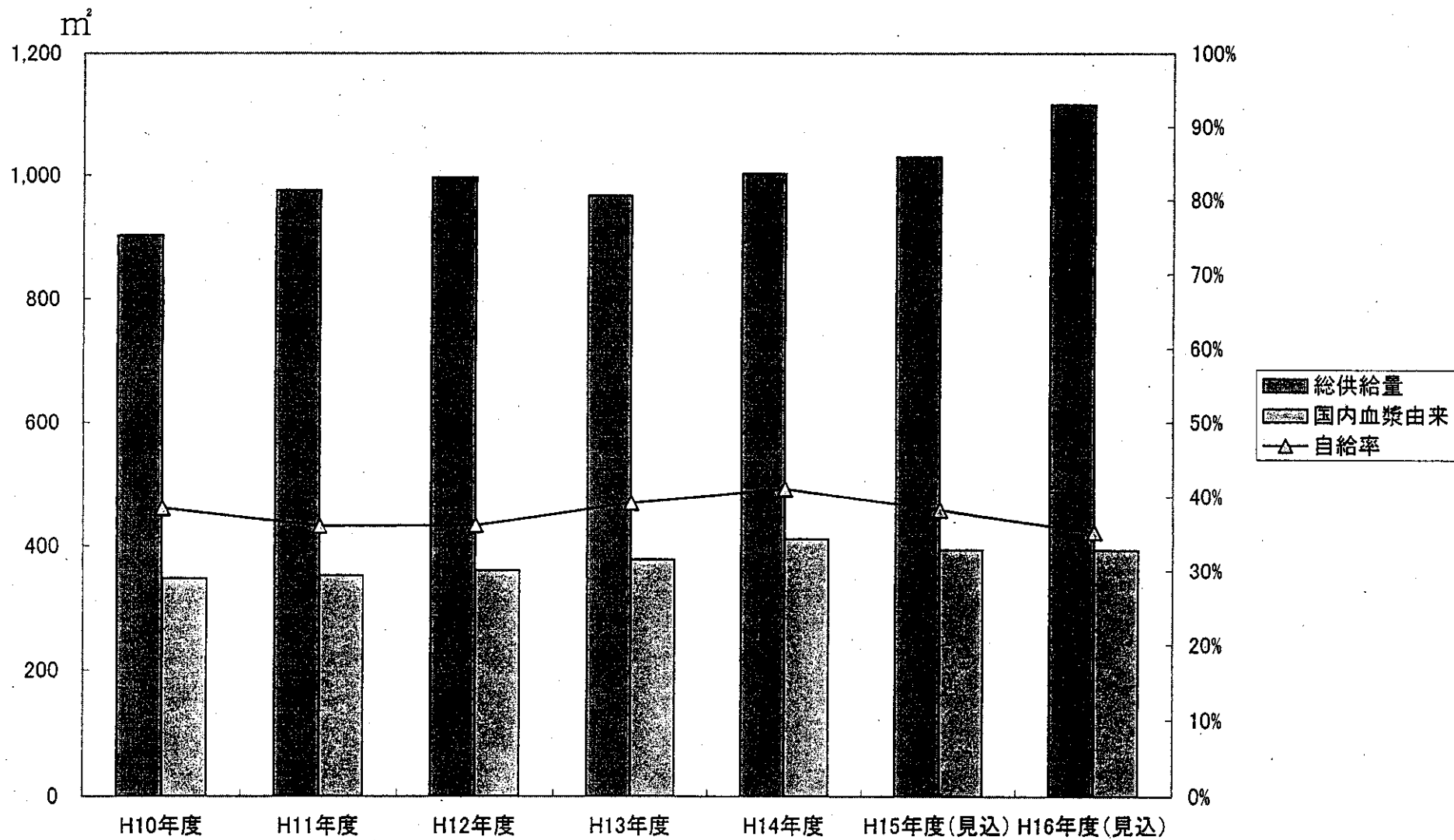
万単位



免疫グロブリン製剤の供給量と自給率

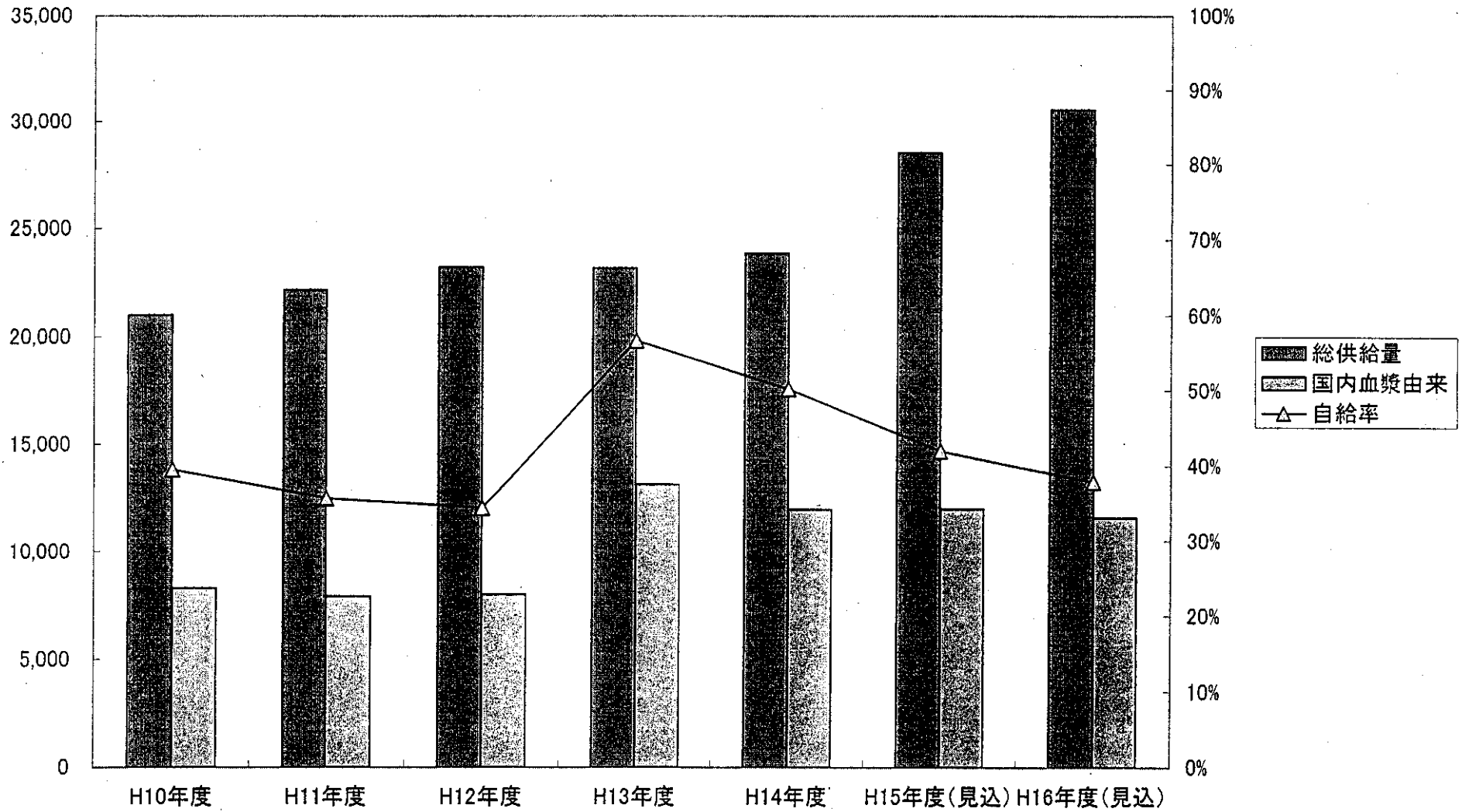


組織接着剤の供給量と自給率

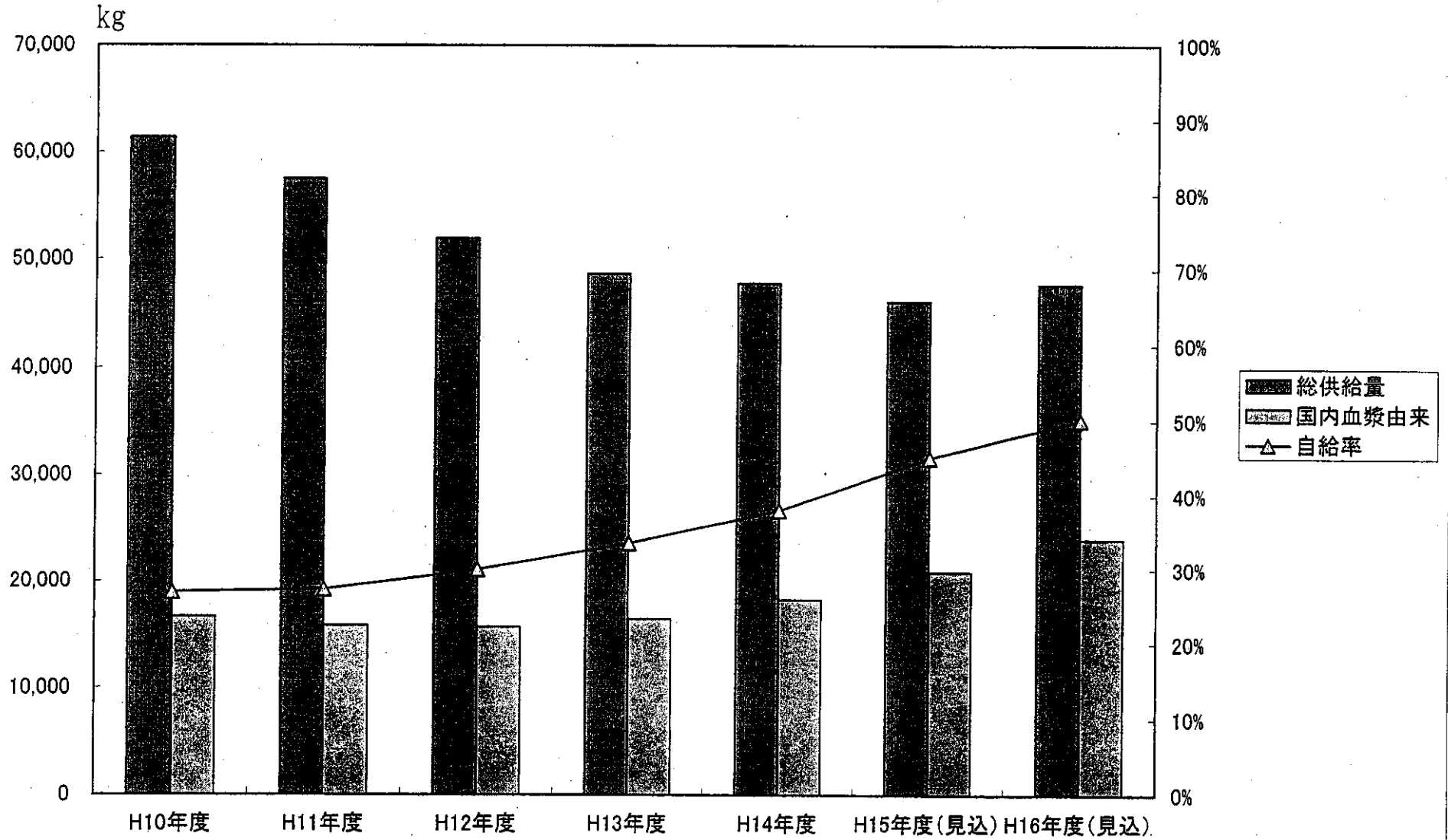


血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給量と自給率
 (遺伝子組換え型含む)

万単位



アルブミン製剤の供給量と自給率



抗HBs人免疫グロブリン製剤の供給量と自給率

万単位

